

特定非営利活動法人

おかやま人権研究センター・ニュース

発行 センター事務局 2011. 6. 10 第13号

第3回通常総会開かれる

6月21日(土)2時から、おかやま人権研究センターの第三回通常総会が開催されました。40人あまりの参加者がありました。

崎本さんの記念講演

議事に先立って、崎本敏子さんの記念講演が行われました。長年にわたる議員生活のまとめや、東日本大震災の救援活動に参加された体験談などでした。現地の生々しい報告は、参加者に強い感銘を与えました。

講演が、聴衆に強い感動を与えたのは、崎本さんが、看護師になることを決意した時のことや、市議会議員にでることを決意した経緯や、後にガンにかかることまで、ご自身の体験と、その都度都度の、主体的な「決意」語られたからだと思われます。

新たな「基盤」を模索する総会

総会では、2010年度の活動のまとめと、2011年度の活動方針が提案されました。それと並んで、決算・監査報告・予算が提案されました。

活動としては、調査・研究を実行しその成果を公刊することにより、人権意識の樹立をめざすという基本方針が確認されました。調査・研究に当たる三つの研究会、「現在」研究会、教育研究会、岡映研究会の活動をさらに活発化させることが確認されま

した。

関連して、非常に困った問題が発生していることも指摘されました。それは読者の減少です。一番大きな減少は、学校関係の読者の減少です。この減少の背後には、かつての部落解放運動を支えた読者層が、課題の達成とともに、姿を消しつつあるという問題がありそうだと報告がありました。

当人権研究センターもそのことを先取りして、課題を、「部落解放」運動から人権活動へとシフトさせてきました。しかしながら、現状では、残念ながら、当センターの人権活動は、十分な支持基盤を獲得するに至っていないのではないかと、新たな支持基盤を確立するためには、教育現場や若者層に向けて、一層の普及活動を展開する必要があると、会員の皆様のご協力をお願いしたいという強い訴えがなされました。

原発反対アピール採択

閉会に先立って、原発反対のアピールが提案され、全員一致で採択されました。アピールは、アメリカの強い要請やそれを丸呑みする政財界による札束政策が、日本の原発推進の背後にあることを指摘しています。

このアピールは、国、自治体、政党などに送られました。(い)